平成 24 年 5 月 28 日

各　　位

会 社 名　　株式会社 王将フードサービス
代表者名　　代表取締役社長　大東　隆行
（コード番号 ９９３６　大証第一部）
問合せ先　　専務取締役経営企画部長　鈴木　和久
（TEL. 075－595－4484）

格付取得（Ａ－）に関するお知らせ

当社は、本日、指定格付機関である株式会社日本格付研究所(ＪＣＲ)より、長期優先債務格付を従来の BBB +から１ノッチ格上げとなる、Ａ－(格付の見通し：安定的)を取得致しましたので、お知らせいたします。

記

１．変更を受けた格付の内容

指定格付機関	格付対象	格付	見通し
株式会社日本格付研究所（ＪＣＲ）	長期優先債務	Ａ－（ｼﾝｸﾞﾙＡﾏｲﾅｽ）	安定的

上記格付事由等の詳細については、添付の JCR ニュースリリース及び JCR ウェブサイトをご参照ください。

（ご参考）

・長期優先債務格付とは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。
・JCR による長期格付の記号の定義において、Ａは「債務履行の確実性は高い」と定義されています。
・JCR の格付定義等、詳細については、以下の JCR ウェブサイトにてご確認ください。

※　JCR ウェブサイト：http://www.jcr.co.jp

２．格付取得の目的

格付指定機関という第三者の立場から当社の財務内容や収益力、内部体制等を審査・評価を得ることで、問題点の改善、活性化が図れるとともに、取引先・投資家等への信用力の向上と判断基準の一つとして活用して頂けることを目的としております。

以　上

News Release

株式会社 日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency,Ltd.

12-D-0147
2012 年 5 月 28 日

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社王将フードサービス（証券コード:9936）

【変更】

長期優先債務格付	ＢＢＢ＋ → Ａ－
格付の見通し	安定的

■格付事由

(1) 「餃子の王将」を展開する外食大手チェーン。大衆中華料理を手作り感を出しながら提供することが顧客から支持されている。12 年 3 月末時点で直営 409 店、元従業員の暖簾分けを中心とした FC 店 213 店を有する。

(2) 当社は店舗別のオリジナルメニューの提供を行うなどの店長の裁量の大きさに加え、報奨金制度がインセンティブとなることで、店舗毎に外部環境の変化に対応し易い体制を構築している。また、出店についても人材育成の進捗や採算面を十分考慮しているため、業界トップクラスの収益性を維持しながら店舗網の拡大を図っている。

(3) メディアへの露出増加による売上好調の反動減により、既存店売上前年同期比が 2 期連続でマイナスとなったが、従来と比べて既存店売上は高水準を維持している。足元でも、当社の提供する中華料理の質や量、手頃な価格などを高く評価している根強い固定客の存在や、TV 放映などを機に来店した新たな顧客の取込みによって、既存店売上前年同月比は下げ止まりつつあり、今後は既存店売上の安定推移が見込まれる。

(4) 12/3 期は天候不順による野菜などの食材価格上昇や、将来の出店に備えた採用増に伴う人件費上昇などの影響があったものの、新店による増収効果と適切な原価管理によって若干の営業減益に留まり、引き続き高い収益水準を維持できている。当面は、大量採用後の人材育成の進捗により積極出店が可能であり、新店効果と既存店の堅調な推移によって、緩やかな営業増益基調が続くとみられる。

(5) 出店は賃貸主体のため設備投資額が少なく、大半の店舗が黒字であることから、減損などの財務リスクは比較的小さい。直近 2 期で自己資本比率が 12.6 ポイント上昇し、13/3 期には実質無借金化の見通しなど、財務構成の改善が進んでいる。また、今後は直営店で 30～40 店舗の新店や改装などの設備投資が見込まれるが、フリーキャッシュフローには余剰を生じさせることが十分可能とみられ、手元流動性の充実が進むと考えられる。さらに、収益力向上に伴う自己資本の蓄積も急ピッチで進んでおり、財務基盤の一段の向上が見込まれる。以上を勘案し、今回 1 ノッチ格上げとした。

（担当）加藤　厚・下田　泰弘

■格付対象

発行体：株式会社王将フードサービス

【変更】

対象	格付	見通し
長期優先債務	A-	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. **信用格付を付与した年月日**：2012 年 5 月 24 日
2. **信用格付の付与について代表して責任を有する者**：松村　省三
   主任格付アナリスト：加藤　厚
3. **評価の前提・等級基準**：
   評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ（http://www.jcr.co.jp）の「格付方針等」に「信用格付の種類と記号の定義」として掲載している。
4. **信用格付の付与にかかる方法の概要**：
   本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ（http://www.jcr.co.jp）の「格付方針等」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2012 年 3 月 26 日）、「外食」（2011 年 7 月 13 日）として掲載している。
5. **格付関係者**：
   （発行体・債務者等）　　株式会社王将フードサービス
6. **本件信用格付の前提・意義・限界**：
   本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
   本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
   本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. **本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者**：
   - 格付関係者が提供した監査済財務諸表
   - 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. **利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要**：
   JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. **JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置**：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等をすることは禁じられています。

■用語解説

長期優先債務格付と短期優先債務格付：債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限 1 年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付と位置づけています。個別債務の評価（債券の格付、ローンの格付等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付が長期優先債務格付と異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

格付の見通し：長期優先債務格付または保険金支払能力格付が中期的にどの方向に動き得るかを示すもので、「ポジティブ」「安定的」「ネガティブ」「不確定」「方向性複数」の 5 つからなります。今後格上げの方向で見直される可能性が高ければ「ポジティブ」、今後格下げの方向で見直される可能性が高ければ「ネガティブ」、当面変更の可能性が低ければ「安定的」となります。ごくまれに、格付の見通しが「不確定」または「方向性複数」となることがあります。格上げと格下げいずれの方向にも向かう可能性がある場合に「不確定」となり、個別の債券や銀行ローンの格付、長期優先債務格付などが異なる方向で見直される可能性が高い場合には「方向性複数」となります。

■本件に関するお問い合わせ先

情報・研修部　　TEL：03-3544-7013　FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency,Ltd.
信用格付業者　金融庁長官（格付）第 1 号
〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8　時事通信ビル